

# 『くびき野文化事典』の紹介

NPO法人頸城野郷土資料室

理事長の石塚正英（東京電機大学教授）は、本法人設立に先立ち、平成初年頃から新潟県中頸城郡妙高村（現妙高市）関山、東頸城郡蒲川原村（現蒲川原区）など頸城野全域において、仏教美術史の泰斗平野団三翁（一九〇五～二〇〇〇）の導きにより民俗学フィールド調査を開始しました。

その成果を『高志路』（新潟県民俗学会）、『石仏ふおらむ』（新潟県石仏の会）、『頸城文化』（上越郷土研究会）などに発表しつつ、同時に、地域の生活にふかく根差した石造物を上越市指定文化財に推挙してきました。その過程で、市民の市民による市民のための郷土文化を調査研究し、その成果を地域社会発展に役立てる方途を模索しました。

こうしてNPO法人頸城野郷土資料

室が構想され、平成二十年二月に新潟県知事の認証をうけ、同年四月一日に創立されたのです。

上越地方の郷土文化を保存・研究し、それに付随する資料の収集と整理、そして郷土文化教育を目的とします。法人を構成する主な事業部は以下のとおりです。

- ① 野外調査部（蒲川原区石造物悉皆調査、頸城野木彫狗犬調査、くびき野ストーン調査ほか）
- ② 学術研究部（協同研究「裏日本」文化ルネッサンス、ワークショップ「暮らしのインタビュー」、個人研究「川上善兵衛研究」ほか）
- ③ 教育事業部（NPO学園くびき野カレッジ天地びと運営）
- ④ 出版事業部（機関誌『くびきのアーカイブ』『くびき野文化事典』編集発行）

⑤ 町家文化部（「あわゆき組」「町家三昧」「NPO法人街並フォーカス」ほか市民団体と連携）

⑥ 地域創生部（くびき野水車発電プロジェクトによる中山間部でのエネルギー自立支援）

⑦ 広報事業部（新潟日報、上越タイムス、エフエム上越などメディア各社と連携）

今回、④の一つとして、頸城野郷土資料室編『くびき野文化事典』を編集・刊行致しました。

監修者：村山和夫、編集委員長：植木宏、発行所：社会評論社。

この事典は頸城野近隣の地元民はむしろのこと、頸城野を愛する全国のみなさんに読んで戴けるような編集方針を立てております。それから、この事典を編集するに当たって、第一に地域住民の視線からみた郷土遺産・文化財に意味を持たせました。

頸城文化とりわけその生活文化に関する情報を簡潔にまとめることは、NPOの崇高な使命であると自覚しております。本事典でくびき野文化の基本を学び知る人は、郷土における就労や生活において明日からの目的意識が明確になる、そのような郷土人の育成、これが今回の編集目的です。

その方針のもと、本年九月にNPO

学園「くびき野カレッジ天地びと」  
(<http://space.geocities.jp/masuyakubikono/index.html>) を開講します。

なお、本事典は、今秋から始まりますNPO学園「くびき野カレッジ天地びと」講義の参考図書となります。

